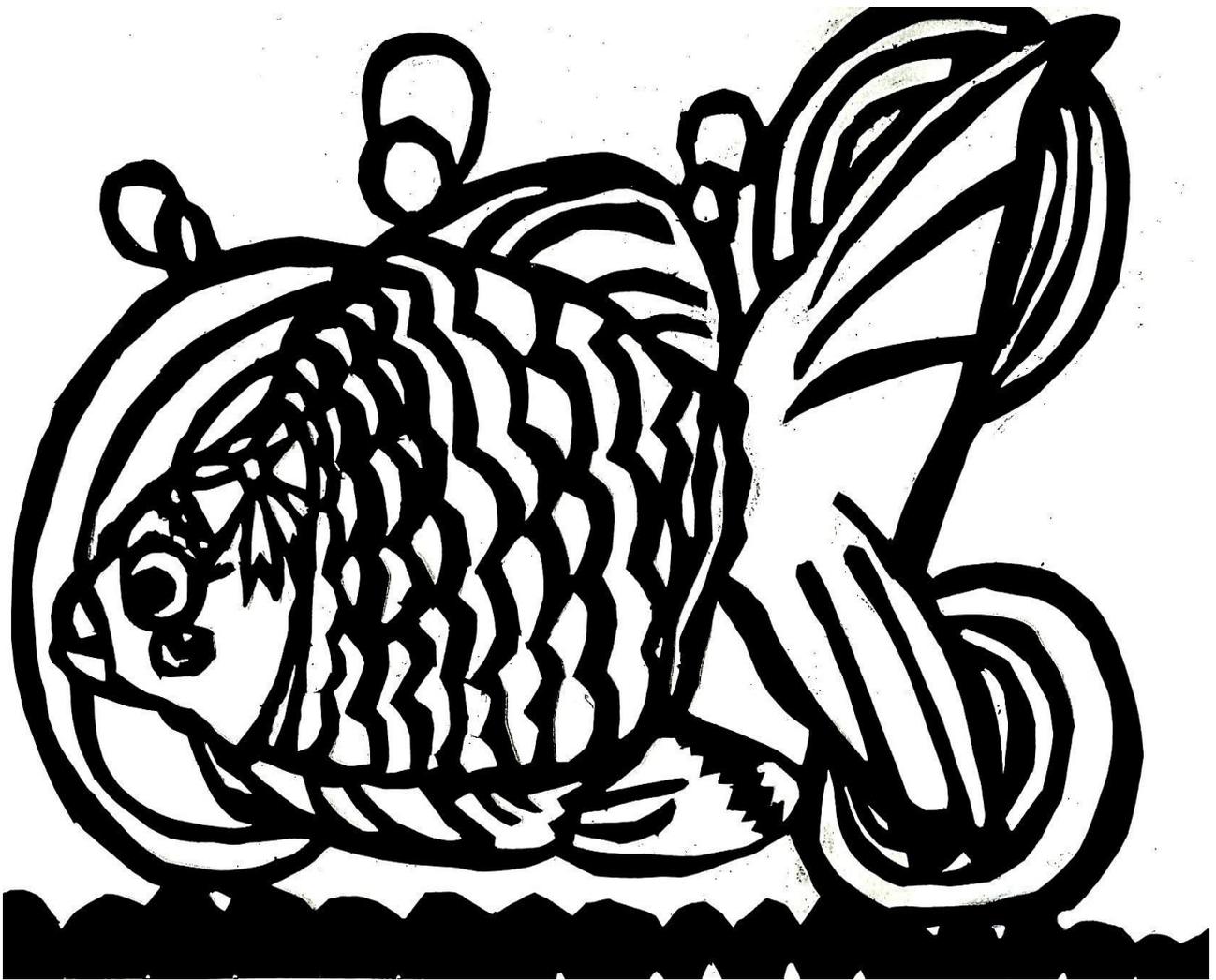


平成 26 年度

「体験チャレンジ事業」報告



切り絵「おしゃれ金魚」高等部3年 今西 泉歌

兵庫県立神戸特別支援学校

目次

・はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学校長 中田 浩嗣

・事業の概要（趣旨、組織、等）

・平成26年度の活動方針、主な活動内容

交流教育活動（姉妹校交流および地域交流など）

＜小学部＞

＜中学部＞

＜高等部＞

学校活性化活動

＜神養まつり＞

＜土曜なかよし活動＞

啓発活動

＜情報発信活動＞

・おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 教頭 森口 隆司

はじめに

平成26年に策定された第2期「ひょうご教育創造プラン」の4つの基本方針の中の一つに「自立して未来に挑戦する態度の育成」があります。変化の激しい時代にあって、子どもたちがそれぞれの個性や能力に応じて生き抜いて行くには、生涯学び続けていく姿勢を身につけることが大切です。その一環として「兵庫型体験教育の推進」があげられています。特別支援学校では、平成26年度より、これまでの行われていた「YU・らいふ・サポート推進事業」と「障害児の自然体験活動推進事業」を統合して、新規の「特別支援学校交流・体験チャレンジ事業」がスタートいたしました。これは、児童生徒の自立を目指した地域との交流活動や自然体験活動・社会体験活動を展開していくものです。

交流教育活動では、近隣小・中・高校との学校間交流、小中学部の居住地校交流、県立神戸甲北高校との「交流及び共同学習」、北区ボランティア協議会の支援のもと、地域人材を活用して行った交流鑑賞会など多岐にわたって取り組みました。

かがやき神戸主催の地域ふれあい祭りへの参加や桜の宮ふれまちセンターでの作品展示、イオン北モールやコープデイズ神戸北町店での校外作品展は地域の力強い支援で行え、今後新しい発展の可能性のある取組みとなりました。児童生徒が交流を通してお互いに成長していくには、今後も合理的配慮の観点を踏まえた指導や支援をさらに進めていくことが重要です。

また、自然体験活動では小学部4・5・6年、中学部1・2年が、「野外や公共施設を利用する活動や宿泊を伴う集団活動を通して、生活経験を広げるとともに、主体的に活動する力をつける」ことを目的に実施しました。つけたい力を明確にして指導計画を作成し、活動を工夫しながら、事前事後指導もしっかり行い、PDCAによる改善も進めています。

これらの活動を行う中で、児童生徒達は、多くの人たちと言葉を交わし、感情を共有する体験をしながら、社会性や人間性を育て深めていくことができていると確信しています。

今後も地域の特別支援教育のセンター校として、多くの方々とふれあいながら、開かれた学校づくりを目指していきます。また、共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育の理念を実現するためにも、この交流活動の輪をさらに大きなものにしていきます。

今後とも各関係者の皆様方のご理解ご支援をお願いいたします。ありがとうございました。

平成27年3月

兵庫県立神戸特別支援学校
校長 中田 浩嗣

事業の概要

I 事業名

兵庫県立神戸特別支援学校「体験チャレンジ事業」

II 趣旨

県立神戸特別支援学校（以下「本校」という）が、家庭及び地域社会等との連携のもと、児童生徒の障害の実態に応じた特色ある取組を行ない、社会性を養うとともに、自立し社会参加するための基盤となる「生きる力」の育成を図る。

また、この取組を通して、学校の活性化と地域社会への特別支援教育の理解啓発を推進する。

III 事業実施期間

平成26年度 1年間

IV 実施内容及び担当分掌

社会参加活動

- ・ 交流教育の推進
- ・ 地域の施設・人材等を活用した地域交流活動の実施
- ・ 地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすための情報発信活動
- ・ その他、本校が実態に応じて創意工夫し、自主的・主体的に実施する活動

V 事業推進組織

<体験チャレンジ事業推進委員会>

地域の関係各団体の代表者

兵庫教育大学大学院准教授

石橋 由紀子

社会福祉法人陽気会理事長おかば学園児童発達支援管理責任者

川崎 則子

桜の宮ふれあいのまちづくり協議会

相川 光一

きた障害者地域生活支援センター所長

大久保 敏則

北部地域障害者就労促進センター長

富田 道隆

保護者 P T A会長

藤尾 さおり

同窓会長

柳 佐知子

本校職員 校長

中田 浩嗣

教頭

西村 恵子

事務長

森口 隆司

総務部長

八瀬 英夫

交流教育部部長

政本 茂雄

三好 敏之

高等部

近隣の高等学校との交流及び共同学習

神戸甲北高等学校甲北祭に参加&見学

6月13日（金）の午後、県立神戸甲北高等学校の文化祭「甲北祭」に高等部1、2年生が参加・見学に行きました。本年度、県立神戸甲北高校本校は対震工事中のため、旧鈴蘭台西高校（旧校舎）で行われ、急遽スクールバス3台で西鈴蘭台まで駆けつけました。

この日は体育館でのステージ発表で、神戸甲北高等学校のダンス部が素敵なダンスを披露してくれました。音楽にのってピッタリと息の合った踊りが印象的でした。本校2年生が全員でステージに立ち、ポピュラーな「ハピネス」を歌いました。県立神戸甲北高等学校の生徒もステージの下から一緒に応援してくれました。次にくるみ割り人形の「トレパック」という曲でボディパーカッションを甲北生とともに演奏をしました。甲北生と本校生徒が自信を持って歌を歌ったり、演奏を披露できたりする交流になりました。

最後に、本校高等部生徒会長小塩君が甲北祭に招待していたお礼を述べました。展示部門ではボランティア部の発表教室内で、本校生徒の美術や家庭科の作品を展示しました。



神戸甲北高等学校生徒と交流及び共同学習

「食品製造」「社会福祉」に高等部2年生が、「生活文化」に高等部1年生が参加しました。食品製造において「きなこ飴」の調理実習をしました。「食品製造」が2回、「社会福祉」が3回（3回目はH27.1実施予定）、「生活文化」が2回と神戸甲北高校の耐震工事が終了した2学期に受講を始めました。

10月には「茶文化と作法」、11月には高等部3年生の「素描」の授業が予定されています。恒例の高校生のボランティア講座は9月5日（金）、高等部3年生が「家庭/美術」で、9月12日に本校高等部2年生の「全体音楽」の授業で、9月19日（金）に高等部1年生が「音」「全体音楽」で交流しました。神戸甲北生徒が29名も各学年の社会福祉の授業に参加、一緒に交流授業を受けました。

県立神戸甲北高等学校の授業に参加した生徒は、同じ高校生と一緒に授業に参加したことが貴重な体験となっています。来年度も継続して実施していきたいと考えています。



ボランティア講座交流（美術）



（美術）



(家庭科)



(食品製造)

北区ふれまち協議会



1 学期は「フラダンス」、2 学期は「日舞」と各学年の音楽の時間で踊っていただきました。一緒に楽しく踊ることができました。

3 学期も「和洋アンサンブル」演奏を楽しみました。

神戸甲北高等学校との交流及び共同学習

今年度もお互いの学校の授業に参加する形での交流及び共同学習を実施しました。

★神戸甲北高等学校で実施した授業

(1) 「交流福祉と共生」「生活文化の研究」(高等部 1、2 年生が参加)

- ・授業内容 一緒にゲームをする。
- ・実施回数 9 月 (2 回)

(2) 「茶文化と作法」(高等部 1 年生が参加)

- ・授業内容 お茶をいただき、自分も点てる経験をする。
- ・実施回数 10 月 (2 回)

(3) 「食品製造」(高等部 2 年生が参加)

- ・授業内容 クッキーや飴の調理と包装。
- ・実施回数 9 月～11 月 (2 回)



「交流福祉と共生」



★本校でも実施した授業

- (4) 「美術Ⅱ」 (高等部3年生が参加)
- ・授業内容 甲北生が、本校3年生の学習発表会の練習を見学し甲北高校に戻ってそれを素描にする。
 - ・実施回数 9月(1回)



神戸甲北高等学校の授業に参加した生徒は、同じ授業を受けたという自信を持つことができるなどとても貴重な体験となっています。来年度以降も継続して実施していきたいと考えています。

神戸甲北高等学校が本校作品展に交流展示

2月14日(日)に行われた本校作品展に、神戸甲北高等学校生徒の美術、書道の授業作品を出展していただきました。

デッサンや書道の素敵な作品にしばし足を止める生徒や保護者の姿がありました。



神戸弘陵高校サッカー部との交流練習(第1回)



落ち葉舞う晩秋の11月17日月曜日、本校グラウンドにおいて、神戸弘陵高校サッカー部と本校サッカー部の交流練習が行われました。交流のために、少し早い目に3時15分過ぎには神戸弘陵高校サッカー部の一年生部員が姿を見せてくれました。

最初は少し緊張気味の双方の部員たちでしたが、柔軟体操、ランニング、パス練習の後は少しずつ会話も弾んできました。お互いに打ち解けてきたところで混成メンバーを4チームに分けてのミニゲームが行われました。ゲームは弘陵サッカー部員の絶妙なパスを受けた本校サッカー部員がシュートを決める場面も時折みられ、盛り上がりました。

神戸弘陵高校のサッカー顧問森先生の言葉。「全国大会に出場した選手はもちろん、最近はおよそ半分の選手が神戸特別支援学校との親睦交流試合を経験しています。」

1時間余りの練習時間があっという間に過ぎ、充実した交流を行うことができました。

神戸弘陵高校サッカー部との交流練習（第2回）



新年早々、始業式終了後10日余りで神戸弘陵学園高等学校とのサッカー部交流が実現しました。本年度2回目の部交流です。1月19日(月)本校グラウンドにおいて3時過ぎから1時間半余りの予定で行われました。神戸弘陵学園高等学校生で前回11月に参加していない生徒を中心に1年生の部員約20名が参加しました。半時間ほど交流して、お互いに打ち解けてきたところでミニゲームが行われました。

平成25年度高校サッカー全国大会出場、2回戦突破の実績のある神戸弘陵サッカー部。(本年度は地区予選で準々決勝敗退という不運でした。)コーチは森先生という方で、サッカー部員はひと各学年40名以上いるという充実ぶりです。本校は三村先生の指導の下、3月の公式試合に備えて練習に励んでいるところです。半時間余り、ランニングや柔軟練習をして、楽しみにしているミニゲームをたっぷりとすることができました。神戸弘陵学園高等学校生と本校生徒との混合チームで6チームができ、それぞれ試合を楽しむことができました。

まとめ

本年度も神戸甲北高等学校との交流及び共同学習を中心に、神戸弘陵学園高校との部活動交流がありました。交流を重ねることで、同じ地域で学ぶ同世代との人間関係の広がりや社会性を伸長が図られたと感じました。生徒たちの生き生きとした表情が見られたり、大きな声が出たりする場面も見られ、交流活動を楽しんでいることがうかがえました。今後も交流活動を継続し、より一層の親密な交流を目指して取り組んでいきたいと思えます。

[バザー]

バザー出店一覧

- ・たまも園 ・作業所のぞみ ・七つの海 ・はっちピヨピヨ
- ・プリウス ・いいかげん ・みのたに園
- ・本校文化部 (PTA)

[模擬店]

模擬店出店一覧

- ・カレーショップこころわーカレーライス
- ・本校 PTAーフランクフルト、パン、おにぎり、ワッフル、お菓子、デザート、お茶&ジュース、からあげ、たこ焼きボール
- ・同窓会 - コーヒー、紅茶、マドレーヌ



[ゲーム]

- ・学生ボランティアのみなさんや先生方によるゲームコーナー (スナックゴルフ、輪投げ、さかな釣り)

小学部から高等部までの児童生徒はもちろん、兄弟・家族など、年齢を越えて楽しみました。

[くじ引き大会]

締めくくりは、くじ引き大会。ボランティアで参加してくださっている甲北高校の生徒のみなさんに進行をお手伝いしてもらいながら、自分の番号が引かれるか!とみんなドキドキわくわくしながら参加しました。くじ引きの券は、本校と他校の生徒とバザー出店くださっている本校の先輩方等にお配りしました。



【最後に】

神養まつりは、毎年多く方にご協力いただいて、とてもすばらしいあたたかいおまつりになっています。本校の子どもたち、保護者同士、保護者と先生方、先生方同士、そして地域のみなさん、本校児童・生徒と同年代の地域の学校の生徒たち、たくさんの出会いの中で、たくさんの笑顔に囲まれ、毎年開催できることをとてもうれしく思っています。

夏休み前から少しずつ、PTAが中心となり準備を行っています。大きなおまつりなので、運営していくことには大変な面も多いのですが、その時その時でできることをできる人がやり、前年から引き継がれたことをいかして模索し、みんなで協力しながら続けています。「継続は力なり」と申しますが、今後も地域とのつながり、保護者と先生と生徒たちが協力しあって、よりよいおまつり、そしてよりよい関係を築いて、学びやすい学校、住みやすい地域となる一助になるように続けていきたいと思っています。

<土曜なかよし活動>

1 はじめに

土曜なかよし活動は、児童生徒達が主体的に有意義に休日を過ごせるよう支援をするために行う活動です。今年度は3回実施しました。PTAの土曜なかよし部が中心になって計画し、職員がそれをサポートしています。また近隣の学校から学生ボランティアも参加し、本校児童生徒との関わりを深めています。活動の計画、実施はPTAが主に担っていますが、外部ボランティアへの協力依頼やサポートは本校交流教育部が担っており、PTAと学校が協力して作り上げている活動だと言えます。

今年度も、大勢の児童生徒と保護者、卒業生、ボランティアの集まる楽しい活動となりました。

2 活動の趣旨

どの活動も児童生徒たちが主体的に活動できるものとなるよう配慮しています。また、近隣の学校からの学生ボランティアだけではなく、地域社会との連携も大切にしている、ふれあいのまちづくり協議会や、神戸市社会福祉協議会障害者スポーツ振興センターの協力を得た活動も行いました。学生ボランティアには、交流教育部が毎回オリエンテーションでボランティアの心得などを話し、スムーズに本校児童生徒とかかわれるように支援しました。

3 活動の概要

(1) 活動日および活動内容

	活動日	活動内容	活動場所	主な協力団体
1	5月31日	グランドゴルフ	本校グランド	桜の宮ふれあいのまちづくり協議会
2	10月18日	とんで！はずんで！たのしいスポーツ！	本校体育館	(社福)神戸市障害者スポーツ振興センター
3	12月20日	クリスマスコンサート	本校体育館	神戸甲北高校吹奏楽部

(2) 参加者数

	活動内容	小学部	中学部	高等部	卒業生	家族	外部 ボランティア	出演等 協力者	教職員	全参加者
1	グランドゴルフ	2	5	2	3	11	16	11	12	62
2	楽しいスポーツ1	6	6	2	0	18	10	11	11	64
3	クリスマスコンサート	4	10	11	4	33	29	14	14	119
計		11	17	23	5	71	30	35	41	233

4 各回の様子及び反省

第1回 グランドゴルフ (5月31日)

桜の宮ふれあいのまちづくり協議会の協力を得て実施しました。まちづくり協議会の方々の指導のもと、学生ボランティアに励まされながらグランドゴルフに挑戦しました。ゴールを目指してみんな一生懸命がんばっていました。最後に成績優秀者は表彰状をもらい、参加者全員がまちづくり協議会の方々が用意してくれた参加賞のお菓子をいただき、とても嬉しそうでした。



第2回 とんで!はずんで!たのしいスポーツ! (10月18日)

(社福)神戸市障害者スポーツ振興センターの方々の指導のもと、リズム運動やサーキット運動等を楽しみました。ミニトランポリンやファシリテーションボールを十分に用意していただき、普段経験できない様々な運動を楽しむことができました。神戸親和女子大学の学生ボランティアの方とも次第にうちとけていって、一緒に運動を楽しむ様子が見られました。



第3回 クリスマスコンサート (12月20日)

お隣の神戸甲北高校吹奏楽部によるコンサートは、今年で11回目となりました。クリスマスソングを中心に今年の流行曲やみんなが知っている曲を楽しく演奏していただき、楽しいコンサートになりました。今年の流行曲では、「妖怪ウォッチのテーマソング」でした。演奏に合わせて、みんなで楽しく踊って盛り上がりました。また、大好評の「指揮者体験コーナー」では、10人くらいの児童・生徒が体験しました。挑戦した子どもたちは、名指揮者の気分を味わいました。吹奏楽部が自分に合わせて演奏してくれた時の満面の笑みが印象的でした。最後にはサンタさんとトナカイさんが登場。お菓子のプレゼントが配られました。児童生徒のみでなく、出演者やボランティアの方々にも感謝の気持ちのこもったプレゼントが配られ、和やかにコンサートは終了しました。

プレゼントや吹奏楽部の方々への花束等の経費は、PTA活動費から支出しました。



5 おわりに

毎年3学期に第4回の土曜なかよし活動を行っていました。しかし、昨年度、雪のため中止になったことを踏まえ、気候条件や健康面等検討した結果、今年度から、2月という厳寒期の土曜なかよし活動はなくすことになりました。年3回になりましたが、毎年継続して行っている活動ということで、前年度の反省を生かしつつ、スムーズに運営できました。参加人数も前年度並みで、活動の毎にPTAの土曜なかよし活動部役員が活動報告を作成し、構内に掲示しました。

ボランティアとして参加していただいた近隣校は、神戸甲北高校、神戸北高校、神戸親和女子大学でした。また、広報での募集をしたところ、個人的に参加して下さる外部ボランティアが数名いました。協力してくれた学校には、活動を終えた2月、YU・らいふ・サポート事業の予算を使って生徒作品のカレンダーを作成し、お礼としてプレゼントしました。

啓 発 活 動

< 情報発信活動 >

1 はじめに

家庭及び地域社会等との連携のもと特色ある取り組みを行い、交流教育活動を充実させることにより、学校の活性化と地域社会への理解啓発を推進してきました。本年度は、昨年度までの活動を継続発展する形で活動を行いました。また、ホームページやブログを更に充実させて発信しました。

2 目的

- ・本校の児童生徒の様子や活動を地域社会に向けて広く情報を発信していく。
- ・地域住民の特別支援教育に対する理解・啓発の促進を図る。

3 実施内容

(1) はあーとわーくす展（児童生徒作品展）

平成27年2月17日（火）～2月20日（金）までの5日間、コープデイズ神戸北町の1階セントラルコートで「はあーとわーくす展」を開催しました。小学部・中学部・高等部の児童生徒作品を展示しました。場所がオープンスペースなので多くの方々に見ていただくことができ、地域住民の方々からも多数の感想をいただきました。本校の教育活動の一端を地域住民の方々に見ていただくことで、特別支援教育への理解と関心を深めていただけることを願い、今後も活動を続けていきたいと思っております。



(2) 北区ふれあいフェスタ2015 北区障がい者美術作品展

神戸市北区を中心に、障がいのある方が制作した絵画・書・写真・陶芸・織物等の作品を紹介する「北区ふれあいフェスタ2013・障がい者美術作品展」がイオンモール神戸北にて2月21日（土）・22日（日）の2日間、開催されました。本校からは書道部・写真部・高等部3年A班が参加しました。全体で5点の入選作品のうち本校書道部の作品2点が入選しました。多くの地域の方々に鑑賞していただき、障がいのある方の理解・啓発の機会になったと思っております。



(3) 行事のポスター配布

運動会・学習発表会・作品展のポスターを作成し、居住地校など交流先には送付、北鈴蘭台駅・北鈴蘭台郵便局・北区役所にポスターを掲示しました。本校の取り組みの理解につながればと考えています。

(4) 北区ボランティア協議会の協力によるふれあい交流教育活動・交流鑑賞会

北区ボランティア協議会のシニアボランティアの方々が本校の授業でふれあい交流活動を実施しています。今年度は中学部3年で国際理解の授業を実施しました。高等部は高等部1・2・3年の音楽（8回）で民謡、フラダンス、アンサンブルを教えていただきました。高等部3年生は、本校3年生の兄でバイオリン演奏者による音楽交流もありました。交流鑑賞会は、小学部はコンサートがありました。中学部は「アンサンブル・フラン」の鑑賞がありました。弦楽器の美しい音色にのせて、有名なクラシックの曲や大好きなアニメの曲などの演奏があり、楽しいひとときを過ごしました。

(5) 地域交流活動 交流校への生徒作品配布

地域交流活動として、土曜なかよし活動にボランティアとして参加していただいた交流校（桜の宮中学校・神戸甲北高校・神戸弘陵学園高校・神戸北高校・神戸親和女子大学）に生徒作品を渡しました。生徒の作品をもとにしたカレンダーです。いずれの学校ともに大変喜んでくださいました。今後もボランティア活動を継続していただき、本校の児童生徒の障害の特性を理解し、社会性の広がりや豊かな人間性を育てる機会となればと考えています。



(6) 地域ふれあい祭りに参加

「かがやき神戸主催」で地域の広陵小・中学校地区の自治会、障害児・者施設のメンバーで地域ふれあい祭りを行っています。広陵小学校で行で行われ、今年度から本校も参加しました。ウェイトリフティング部が演技を披露しました。



4 おわりに

現在、障害者が差別を受けることなく、障害のない人と共に生活し、共に学ぶ教育（インクルーシブ教育）を実現することが求められています。今後は、障害のある子どもの個別的なニーズに的確にこたえるため「合理的配慮」を適切に行うことが求められ、地域社会との連携をより充実させていくことになります。

秋に発行した「交流だより」では、本校の交流の様子を知っていただくことができました。来年度以降も続けて発行し、交流教育活動の活性化を図るとともに、地域との共生社会の実現に向けて働きかけていきたいと考えております。

「はあーとわーくす展」では、買い物の帰りに足を止めて作品を見てくださる姿を見て、多くの方々に作品を見ていただけていることを嬉しく思いました。また、アンケートにも多数ご記入いただきました。障害を持っていても個性を生かしすばらしい作品であるとの声が多く、心温まる思いでした。

今後、ますます地域住民や近隣交流校及び近隣施設等との交流活動を活性化し、ボランティアに多く参加していただけるよう働きかけていきたいと思っております。そのことが本校の特別支援教育に対する理解・啓発の促進を図ることにつながると考えています。

おわりに

国におきましては、平成 18 年に国際連合で採択された「障害者の権利に関する条約」に基づいて、平成 23 年 8 月に「改正障害者基本法」が施行され、障害者とその年齢及び能力に応じ、かつ、その特性を踏まえた十分な教育が受けられるようにするため、可能な限り障害者である児童生徒が障害者でない児童生徒と共に教育を受けられるよう配慮することと規定されました。また、平成 25 年 6 月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の公布、9 月には、障害のある児童生徒等の就学先決定のしくみに関する「学校教育法施行令」の改正が行われました。このように国内法令の整備を行い、平成 26 年 1 月 20 日付けで我が国の批准が国際連合で承認されました。

本県でも、これらの動きを受けて、平成 26 年 3 月に第 2 期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」を策定しました。それを受けて、特別支援教育の充実を一層図るために「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」を策定し、特別支援教育の推進・充実に努めているところです。

さて、本校では、昨年まで「YU・らいふ・サポート事業」の中で「交流教育活動」「学校活性化活動」「啓発活動」に取り組んでまいりましたが、今年度より、その事業は「特別支援学校交流・体験チャレンジ事業」という名称で、県の事業として新しく展開することとなりました。名称は変わりましたが、今年度もこれまで以上に様々な活動に取り組んでまいりました。

「交流教育活動」では、近隣の小学校や中学校と姉妹校交流を実施しました。また居住地校交流では、居住地にある小学校や中学校へ本校在籍の児童生徒が訪問し地域の同学年の児童生徒と交流をしました。隣接している高等学校とは、交流及び共同学習として両校の生徒がそれぞれ事前学習を十分行い、また両校の教員による授業前の打合せをしっかりと行うことで、充実した授業を受けることができました。生徒同士の触れ合う様子は、楽しそうに一緒に授業に取り組んでいる姿が見られました。児童生徒たちは、活動を通して達成感や充実感を味わうことができました。

「学校活性化活動」では、土曜なかよし活動や神養まつりに取り組みました。保護者や地域の皆様、また関係機関の方々にも参加していただきました。高校生や大学生などのボランティアの方々にも参加していただき、多くの方々と触れ合えたことは、児童生徒の貴重な経験となり、学校としても地域に対しての理解啓発につながりました。

「啓発活動」では、近隣のショッピングモールや地域のショッピングセンターなどを会場として、「はあーとわーくす展」や「ふれあいフェスタ」などの催しに児童生徒たちの作品を出展しました。ご覧いただいた方々からは、多くのお褒めの言葉をいただき、障害児・者への理解啓発となりました。

以上のように本事業を通して、児童生徒たちは有意義な経験ができました。彼らのさらなる成長を見守りながら、これからも開かれた学校として教職員が一丸となって取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、本事業の推進にご協力いただきました保護者や地域の皆様をはじめ、本事業に参加していただいた児童生徒の皆さん、先生方、地域ボランティアの方々に心から感謝申し上げます。今後も、本事業の推進を通して「自立と社会参加」の実現に向けて、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

教頭 森口 隆司